

 **AUTOBACS**

GPR

KARTING SERIES

2025

MOTEGI ROUND RACE REPORT



2025年 全日本カート選手権 OK部門 第3戦・第4戦

2025年 ジュニアカート選手権 ジュニア部門 第3戦・第4戦

2025年 ジュニアカート選手権 ジュニアカデット部門 第3戦・第4戦

2025年 Rok CUP JAPAN GPR RokSHIFTER 第3戦・第4戦



2025年6月14日～15日
モビリティリゾートもてぎ

 **AUTOBACS**

 **ANEST IWATA**

 **CVSTOS**

 **UP GARAGE**

 **amOn**

 **DUNLOP**

 **NGK**

 **Triple K**

 **DECM**

 **GLEATQ**

 **YAMAHA**

 **DUNLOP**

 **NGK**

OK Class

『第3戦:最終ラップに逆転し酒井龍太郎がOK部門初優勝!』

今回から手塚大雅(Zi-ViVre RT)が加わり18台のエントリーとなったOKクラス。タイムトライアルでは酒井龍太郎(ミツサダPWG RACING)がトップタイムをマーク。僅差で皆木駿輔(DragoCORSE)、三村壮太郎(K.SPEED WIN)のベテラン勢が続く。

22週の決勝、まずは酒井が好スタートでトップを周回。ジリジリと引き離すかに見えた。しかし、2番手の皆木がその差を削っていくと、8周目にはトップに浮上。以降は酒井を従えて周回を重ねるマッチレースとなる。

最終ラップ、先頭は皆木。要所要所はインを占め、酒井をブロック。しかし、ヘアピンへのアプローチでわずかにアウトに動いたところを、酒井が見逃さずに飛び込み逆転。そのまま皆木を従えてチェッカーを受け、OKクラス初優勝を飾った。

優勝ドライバー:酒井 龍太郎 (No.44 ミツサダ PWG RACING)

「去年は同じグリッドから出てペナルティをもらったり、PPからスタートでもうまくいかないことが多かったんで、最後にトップで戻ってこられたことは嬉しい。最後狙っていたけど、100%の自信はなく、五分五分だとは思っていました。次はもっと速さを見せて、勝てるように頑張ります。」



『第4戦:皆木が得意のもてぎで雪辱の優勝!』

第4戦のPPは第3戦でファステストラップを記録した皆木。2番手に酒井龍太郎が続く。26周と周回数も増えた第4戦決勝、まずは皆木がホールショットを奪い、2番手には中野駿太(Racing Square GEN)が浮上、酒井龍太郎が3番手に続く。しかし、その直後の3コーナーで中野と酒井龍太郎が接触し、酒井龍太郎はコースアウト、リタイアとなった。中野にも黒旗が出され失格となる。これで楽になったのが皆木。序盤から独走へと持ち込み、10周過ぎにはリードを6秒以上にまで広げる。2番手には三村が単独走行。3番手争いは佐藤佑月樹(YAMAHA MOTOR Formula Blue)を先頭とした集団で最後まで激しいバトルを見せる。レースは皆木が逃げ切り雪辱の優勝、2位に三村、3位は激闘を制した佐藤が初表彰台を獲得した。

優勝ドライバー:皆木 駿輔 (No.34 DragoCORSE)

「第3戦の結果からいろいろ考えてこのレースに臨みました。スタートからトップを守れて、後ろも引き離せたいい展開でした。今回は鈴鹿と違いしっかりとポイントを持って帰れたので、シリーズ争いに向けても良かったと思います。」



Junior Class

『第3戦:坂野太絃が逆転優勝』

12台の参加となるジュニアクラス。タイムトライアルでは井ノ瀬喜仁(ハルナカートクラブ)がトップタイム。開幕ラウンドで連勝している坂野太絃(Peak Performer with THISTLE)は、タイムは出していたものの、最後にイエロー区間だった4コーナーでスピン、コースアウトしてしまったため、3rdタイムまで抹消され、11番手と出遅れることとなる。

第3戦決勝では序盤は井ノ瀬がトップを守るものの、3周目には飯田一仁(TAKAGI PLANNING)がトップに浮上。さらに林樹生(HIROTTEX RACING with IMPUL)も2番手に上がる。しかし、これをさらに上回るペースで挽回してきたのが坂野。11周目には3番手、12周目に2番手に上がると、15周目には飯田を捉えトップに浮上。その後は集団を突き放し独走へと持ち込むと、そのままチェッカーを受け、逆転で開幕3連勝を達成した。

優勝ドライバー:坂野 太絃 (No.88 Peak Performer with THISTLE)

「追い上げて勝てたのは嬉しい。予選のミスを取り返せたかな。ちょっと焦りもあったので、次は落ち着いてレースができるようにしたいです。」

『第4戦:坂野太絃が開幕4連勝』

第4戦のPPは坂野が獲得。2番手には島津舞央(ERS with SACCCESS)が続く。レースがスタートすると、序盤から坂野が独走。安定したペースで2番手以下を寄せ付けない。2番手には林、さらに今村昂星(Vitec Racing)が浮上し坂野を追うが、その差は縮まらない。終盤に入っても坂野のペースが落ちることはなく、5秒以上の大量リードを築いてチェッカー。開幕からの連勝を4に伸ばした。2位に林、3位に今村が入った。

優勝ドライバー:坂野 太絃 (No.88 Peak Performer with THISTLE)

「疲れました(笑)。セットも合っていたし、ミスもなくいいレースだったと思います。このまま1回も負けずにチャンピオンになります。」



Cadets Class

『第3戦:阿部瑠緯がGPR初優勝!』

カデットクラスには17台がエントリー。路面が回復してきたタイムトライアルでは、1台を除き16台がスリックタイヤを装着し出走。トップタイムはもてぎをホームとする阿部瑠緯(ミツサダ PWG RACING)が獲得。2番手にはもてぎシリーズでも阿部と競っている久田朱馬(ガレッジC)が続く。

第3戦の決勝では、阿部がホールショットを奪うも、すぐに3番手スタートだったユン・ダニエル(LUCE MOTORSPORTS)がトップを奪い、集団を引っ張っていく。3周目には小林尚瑛(Ash)、5周目には阿部とトップが入れ替わっていく。トップに立った阿部は、終盤にかけてややリードを築くことに成功。2番手には久田が上がり阿部を追うが、仕掛ける距離までは接近できない。最後まで逃げ切った阿部は、嬉しいGPR初優勝。2位に久田、3位に小林が入った。

優勝ドライバー:阿部 瑠緯 (No.21 ミツサダ PWG RACING)

「ちょっと厳しかったけど、チームのスタッフの人に色々教えてもらって、こういったレースができたのだと思う。今回は落ち着いてレースができて良かったです。」

『第4戦:阿部が逆転で連勝!』

第4戦のPPはユン・イサック(LUCE MOTORSPORTS)、2番手に小林が続き、第3戦優勝の阿部は6番手からのスタートとなる。スタートからしばらくはユン・イサックがトップをキープしレースを引っ張っていく。それを逆転したのが久田。6周目にトップを奪う。しかし、9周目には追い上げてきた阿部がトップに浮上。久田と小林は2番手争いを展開する。その小林にはユン・イサックも襲いかかり、15周目に3番手に復帰。この間にもリードを保っていた阿部が、そのまま連勝のチェッカーを受け、2位久田、3位ユン・イサックと続いた。

優勝ドライバー:阿部 瑠緯 (No.21 ミツサダ PWG RACING)

「凄く嬉しいです。監督たちに感謝しています。自分は焦ると遅くなってしまうので、焦るなど言われて送り出されました。次も絶対勝ちます。」



Shifter Class

『第3戦:伊藤聖七がバースデーウィン!』

今回は7台の参加となったシフタークラス。開幕ラウンドに引き続きの参戦となった松田次生(NEXTBIRTH with HKC)は、今回が初のもてぎ北ショートコースでの走行。土日の2日間でいかにコースを攻略できるか。さらに、今大会から平手晃平(CVSTOS Racing ANEST IWATA)から参戦。こちらも四半世紀ぶりのもてぎ北ショートでのレースとなる。まだ路面が濡れている状態で迎えたタイムトライアルでは中里龍昇(TONYKART R.T.J.)がトップタイムをマーク。チームメイトの田崎脩馬(TONYKART R.T.J.)が2番手で続き、平手は3番手タイムをマークする。

第1戦決勝、路面も乾きドライでのレースとなった。好スタートを見せたのは田崎。その直後に中里、伊藤聖七(Ash)と続いていく。10周を迎えるところから、3台がテールtoノーズとなり、10周目に2番手に上がった伊藤が11周目にはトップを奪う。その後は、後続を突き放すようにリードを広げた伊藤が独走。後方では平手が3番手に上がってくる。トップの伊藤は独走のままチェッカーを迎え、シフター初優勝を獲得。自身の16歳の誕生日を勝利で祝った。

優勝ドライバー:伊藤 聖七 (No.50 Ash)

「後方スタートでしたがポイント獲得を狙っていました。3位に上がってからは優勝が見えてきました。勝ててよかったです。このまま連勝を狙っていきます。」

『第4戦:今度は中里龍昇が初優勝!』

第2戦決勝のフロントローはベストタイムが全く同じで、セカンドベストで上回った中里がPPを獲得。2番手に田崎が並ぶ。スタートで混乱があり仕切り直しとなったが、そのスタートでは中里がホールショットを獲得。田崎、伊藤と続いていく。序盤からリードを広げていった中里。やや離れた2番手となる田崎には伊藤が接近していき、12周目に逆転。しかし、この時点で中里のリードは2秒以上あり、この差を生かした中里が逃げ切りで、こちらもシフター初優勝を飾った。

優勝ドライバー:中里龍昇 (No.24 Tony Kart R.T.J.)

「今回はトップで逃げられて良かったです。めちゃくちゃ嬉しいです。次も逃げて勝ちたいです。」



Point Standings - OK

※有効ポイント:全10戦中8戦

[illegible]

Point Standings - Junior

※有効ポイント:全10戦中8戦

[illegible]

Point Standings - Cadets

※有効ポイント:全10戦中8戦

[illegible]

Point Standings - Shifter

※有効ポイント:全10戦中8戦

[illegible]

Point Standings - TEAM

Cadets

Pos.	Team	合計
1	ミツサタ PWG RACING	85
2	カレージC	85
3	HIGUCHI RACING TEAM	66
4	Ash	65
5	LUCE MOTOR SPORTS	65
6	RT WORLD	64
7	KWS Speed	57
8	チームナカオ&丹羽レーシング	42
9	SCUDERIA SFIDA	25
-	ハルナカートクラブ	0
-	AUTO-TEC-RACING	0
-	KF MOTORSPORT	0
-	Sigma Racing	0
-	AP SPEED	0
-	REON RACING TEAM	0
-	チームエッフェカーラ	0

Junior

Pos.	Team	合計
1	Peak Performer with THISTLE	100
2	HIROTEX RACING with IMPUL	82
3	Vitec Racing	75
4	ERS with SACCESS	58
5	Front Row Racing & Co	36
6	TAKAGI PLANNING	36
7	ハルナカートクラブ	31
8	AP SPEED	15
-	Sigma Racing	0
-	チームエッフェカーラ	0
-	DELIGHTWORKS RACING	0

OK

Pos.	Team	合計
1	KF MOTORSPORT	84
2	TEAM EMATY	71
3	YAMAHA MOTOR Formula Blue	71
4	Drago CORSE	69
5	K.SPEED WIN	42
6	ミツサタ PWG RACING	39
7	Racing Square GEN	33
8	HIROTEX RACING	27
9	HRT	15
10	GLEATEQ Motorsports	15
11	Zi-Vivre RT	13

Shifter

Pos.	Team	合計
1	Ash	69
2	Tony Kart R.T.J.	65
3	RS-イディアびいたあばん	50
4	MOMOX KART RACING	42
5	NEXT BIRTH wis HKC	38
6	CVSTOS Racing ANEST IWATA	20
7	MID competition	16
8	KP-BUZZ	16
-	LAM Racing	0
-	RS nakatsuchi	0

**NEXT ROUND »» AUTOPARADISE GOTEMBA
2025.08.30 (Sat) - 31 (Sun)**

MORE DETAIL »» <https://www.gpr-race.com/>

